

季刊「どう」

テーマ：守る勇気と行動を今

道 DOU

文武に学び未来を拓く 2024年7月 夏号 No.221

宇城憲治 巻頭対談

ゴリラに学ぶ喧嘩の極意

―負けず、勝ちをつくらず、共存する社会―

総合地球環境学研究所所長・霊長類学・人類学者

山極壽一

カラー化写真が呼び起こすもの

広島テレビ放送株式会社／『記憶の解凍』庭田 杏珠

ドキュメンタリー

映画に平和への思いを託して

ジャーナリスト／映画監督 三上 智恵

【好評連載中】安藤誠／佐々木隆／工藤清敏／山元加津子／金澤泰子／前島由美／野村哲也／岩井喜代仁／宇城憲治



愛の関わりと連携で 輝きを取り戻す子どもたち

ゆめの森こども園代表 前島 由美

第18回

世界のママたちの願いはひとつ

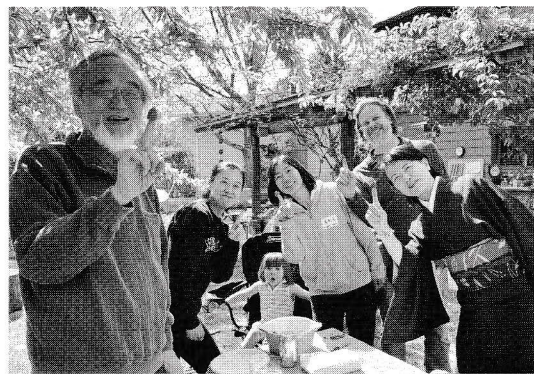
『輝きを取り戻す「発達障がい」と呼ばれる子どもたち』で紹介する子どもたちの変化の実例に、大きな反響が寄せられ、その波紋は大きく海外まで及んでいる。今回はアメリカ・ポータランドで行なわれた「グランド・マザー」の講演会をレポートしていただいた。

ポータランドでの食と教育、自然環境を考えるイベント

今年4月、滞在期間4日という短い期間でしたが、グランド・マザー共同代表の汐見稔幸先生と共に、2日間にわたるアメリカ・オレゴン州ポータランドを訪れ、講演会と教育関係者等とのディスカッションに出席させて頂きました。日米で「子どもたちの心と体の健康を守り、すべての生命が輝く地球づくり」に向かう第一歩を踏み出すためのイベントと一緒に企画主催し

今年4月、滞在期間4日という短い期間でしたが、グランド・マザー共同代表の汐見稔幸先生と共に、2日間にわたるアメリカ・オレゴン州ポータランドを訪れ、講演会と教育関係者等とのディスカッションに出席させて頂きました。日米で「子どもたちの心と体の健康を守り、すべての生命が輝く地球づくり」に向かう第一歩を踏み出すためのイベントと一緒に企画主催し

今年4月、滞在期間4日という短い期間でしたが、グランド・マザー共同代表の汐見稔幸先生と共に、2日間にわたるアメリカ・オレゴン州ポータランドを訪れ、講演会と教育関係者等とのディスカッションに出席させて頂きました。日米で「子どもたちの心と体の健康を守り、すべての生命が輝く地球づくり」に向かう第一歩を踏み出すためのイベントと一緒に企画主催し



右から3人目がアキコさん、左端が汐見稔幸先生

ご夫婦で自宅と庭を理想的な幼稚園に改築し、子どもたちが自然と触れ合いながら自由に伸び伸びと遊ぶ中でその成長をサポートする夢を実現しておられました。

昨年の夏、出雲の古民家ゆめの森こども園で1日ゆつくりとお話が出来たことは、県外での活動で留守にすることが多い私にとって、まさに運命的なご縁だったと感じています。

そのご縁で実現した2日間にわたる海を越えたイベントの初日の会場は、来場された100名近くのポータランド市内に住む日本人のお母さん方で埋め尽くされました。温かい拍手と歓迎ムードの中で、汐見稔幸先生も私も嬉しい気持ちいっぱいにお話をさせて頂きました。

先進国の課題である、増え続ける子どもたちの発達障がいや大人の鬱病、薬物依存等の精神疾患における現状は、日米に差はなく、食も含めた「自然を取り戻す」という観点からの講演に会場全体が聴き入り、大きく頷いてくださる姿に感動と勇気を頂きました。

ポータランドのダウンタウンでは溢れるホームレス問題があり、市民の安全のためにも、ホームレスが暮らせる住居エリアを税金で整備したり、精神を病む人たちへの手厚い対策が取られていましたが、根本的な解決策は見えておらず、市民の皆さんも不安を抱えています。

今回のような「食から腸内環境を整え、出来るだけ化学的な物質を体内に取り込まないことで、精神の安定や疾患の改善に繋がる」ことが専門的に裏付けられ実践事例から確認出来れば、こうした問題の根本的な解決だけでなく、社会全体に明るい兆しをもたらすことに繋がると思います。

汐見先生の、「今のAI社会において、目に見えない子どもたちの深い心の部分をどう育んでいくか」についてのお話も、非常に関心を持って聴き入ってくださいました。その内容については、当日参加されていたライターの方が分かりやすくまとめてくださいましたので、以下のサイトを是非ご覧ください。

<https://note.com/dorimi/n/n5f5bd74667eb>



ディスカッションで見た、子どもに関わる大人たちの課題

2日目は、アキコさんが運営する幼稚園「木の根スペース」の中に建てられた素敵な木造建築のホールに、ポートランドのリースクールやシユタイナースクール等の関係者が集まり、ポートランド在住30年以上の小澤弘子さんによる見事な同時通訳で、言葉の壁を越えたとても有意義なディスカッション



ンが展開されました。その中で焦点となったのは、子どもたちの現状ではなく、そこに関わる大人（親や教師）のあり方の課題でした。

ディスカッションが進む中、大人のあり方や関わり方における部分での意見交換から、その人の中にある「愛と調和の意識」へと目が向けられ、



すべてを丸ごと受け入れる心のあり方、許し合える心のあり方こそが、すべての問題解決に繋がるのだらうと理解し、その大きな一助となるのが「食から自然を取り戻す」ことだと認識しました。

国境を超えて、人種を超えて、同じ地球人として「心」を大切にすること、そのためには地球の誕生を思い出し、微生物に包まれた豊かな自然環境を取り戻し、その中から学び、育ち合うことの大切さを見直そう！と心が一つになった素晴らしいディスカッションでした。

ディスカッション終了後は、自然あふれる「木の根スペース」の園庭で、お母さん方が各家庭から持ち寄った、それはそれは美味しい手料理を頂きながらの交流会。中には嬉しい発酵食もあり、テーブルを囲んでお喋りに花が咲きました。アキコさんが名付けた「木の根スペース」という幼稚園の名前には、「木の根つことスペース（宇宙）が繋がる」という意味があるそうで、それを聞いて改めてアキコさんの深い思いに感動しました。

園庭には、アキコさんとご主人がせっせと種を蒔いたという可愛らしい草花が敷き詰められ、子どもたちが遊びながら食べられる果樹がたくさん。木登りやブランコが存分に楽しめる大木もあちこちにあり、極め付けは、枯れ

葉や炭で土を発酵させた「菌ちゃん畑」が広がる中を元気に鶏たちが駆け回っていました。こんな何とも幸せな楽園に毎日通って過ごせる子どもたちは幸せそのものです。

木の根スペースのような、自然環境の中でどこまでも笑顔で見守り、一緒に楽しく遊んだり、困った時にそっと手を差し伸べてくれる先生たちが居てくれる場所が、世界中の子どもたちに保証される時代を築きたい！と、今回の旅で夢はますます壮大に膨らみました。そして、ポートランド市は、日本の北海道札幌市と姉妹都市で、市長が神戸市を訪問されていたことも分かり、今回ポートランドに暮らす日本のママたちとのご縁が、日米の新たな世界平和に繋がる架け橋になれば良いなあとワクワクしています。

まえじまゆみ

療育支援施設ゆめの森こども園で「発達障がい」とされる子どもたちをサポート。2022年3月、運営会社名を「株式会社キフテッド」と改め、新たなスタートを切った。

一般社団法人グランド・マザー
<https://369grandmother.com/>

書籍『輝きを取り戻す
「発達障がい」と呼ばれる子どもたち」
発行・どう出版

前島由美の人生お絵描きムービー
<https://youtu.be/W1328-y4VCw>

『輝きを取り戻す』第2弾発売予定です。71頁を1覧ください。

